

## 世田谷区基本構想審議会第2部会（第1回） 議事要旨

【日 時】 平成24年2月23日（木） 午後7時～午後9時

【場 所】 世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

- 委員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、飯田哲也、永井多恵子、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上島よしもり（第1部会）、風間ゆたか（第3部会）、田中優子（第3部会） 以上10名
- 区 小田桐政策企画課長、吉原政策研究担当課長、岩本財政課長、吉田政策経営部副参事

【議事概要】

### 1 部会の視点

街づくり、防災、環境・エネルギー、産業・仕事、芸術文化

### 2 第2部会の進め方

- ・部会の議論テーマを中心に、他の部会に関連するテーマについても議論していく。また、委員の専門に限らず、各委員から広い知見で話をしてもらい、その中で議論を進める。
- ・一つの議論テーマが議論のなかで、色々と他のテーマに関連してくると思われる。他の分野につなげて議論を活発化し、少人数でたくさんの議論ができるような方式とする。

### 3 主な意見

- ・世田谷らしいキーワードを出し合い、メリハリのついた構想・計画となるようにしたい。
- ・3.11は歴史的にみて大きな転換期である。その後に策定する基本構想の意義は重要と考える。これから世田谷区がどうしていったらいいかを考え、基本計画を立てていくための導線となるような基本構想が作れるとよい。
- ・世田谷に住み続けたいと思う気持ちが大事。
- ・20年後につながる人の住み方、街の住まいなどを考える。
- ・職住接近の考え方が重要。普段からの顔見知りが増え防災力を高めるが、そのために区内で働く人を増やす新産業の創造や、既存産業の活性化が重要ではないか。
- ・世田谷らしい産業をどのように考えるか。大規模な生産業は難しい。分散型で広いスペースを必要としない産業、IT、デザイン、アート、大学、知的産業などがポイントになってくるか。
- ・新しい産業も重要だが、既存の産業をどのように支えていくかも重要。街づくり、産業、防災など、昔からある資産を有効活用していくことが大事。世田谷として、どういう産業が必要なのか。
- ・お互いの顔が見えるように。絆が大きい。コミュニティの活性化をどう進めるか。
- ・多世代間の支えあいが必要である。
- ・街づくりと防災は、切り離せない。
- ・子どもたちが街の中でどう育つのかと考えている。街づくり、文化的要素なども取り入れながら、基本構想に盛り込みたい。

- ・地域の住民の接点の場として小学校を最大限活用できないか。財政が厳しくなる中での、既存のものを活用した街づくり。
- ・みどり33の取組みは重要である。みどりがあるというのは空地があるということ。災害時にどう対応していくのかなど、20年を見据えた街づくりが必要。同時に、みどりというのが大きなブランドにもなる。
- ・エネルギーの地産池消など、これからの時代の暮らし方について考えたい。
- ・南北交通についても、構想の中で語られるとよい。

#### 4 次回以降の進め方について

- ・本日、議論した意見についてはまとめることはしないが、今回のこの部会の共通の議論となったことを挙げるならば、人が住むところと働くところは一体であるということ。このことが大きな議論テーマになってくるのではないか。
- ・次回も今日のような感じで部会の議論テーマを基に、幅広く意見を出しながら進める。
- ・前回議論したことについて、更に深く議論したり、議論できなかったテーマについて議論を進めていく。